

旧茨城県立土浦中学校本館

土浦市真鍋4-4-2（茨城県立土浦第一高等学校内）

JR土浦市駅から北へ約5キロメートル、茨城県立土浦第一高等学校の敷地内に洋風の建造物があります。これが、明治37年（1904）12月に建てられた旧茨城県立土浦中学校の本館です。正面玄関天井裏からは「上棟式 大棟梁茨城県技師工学博士 駒杵謹治」と記された棟札が発見されました。



設計者は、東京駅や日本銀行本店などを設計した辰野金吾の弟子で、東京帝国大学を卒業した後の青年建築家・駒杵謹治。茨城県技師となり、26歳の時の作品となります。駒杵謹治が設計し、県内に現存するものでは、旧茨城県立太田中学校講堂、茨城県立水戸商業高等学校旧本館玄関があります。

旧茨城県立中学校の本館は、木造一階建て、建築面積987.9平方メートルの建造物です。当時としては、非常に目新しいもので、平面構成は、凹字型の左右対称で正面を重視した古典的な手法をとっています。建物外縁の窓は引き違い窓としており、教室・廊下という空間機能の違いよりも、外観を重視したものとなっています。しかし、廊下は教室の西側に設けて平面構成の上では左右非対称となっています。これについては当時の学校建築の基本に従っており、授業の妨げになる西日を遮断するように配慮されています。

意匠的にはゴシック様式を基調とし、正面中央玄関の三連尖頭アーチに見られる力強く美しいフォルムに特徴があるほか、左右の尖塔・切妻破風、左右屋根面に各3個ずつ設けた屋根窓、連続する縦長窓など、垂直性を強調した直線が多用されており、明治20年代以降、わが国に流行したアメリカ流の木骨形式の影響を受けたものでもありました。

昭和51年（1976）2月に、旧制中学校では国内初の国指定重要文化財となりました。平成30年（2018）3月に耐震補強工事が完成し、建物は学校の敷地内にあることから、普段、見学ができるのは外観のみで、一般公開は第2土曜日のみとなっています（要確認）。

茨城教育 第八七七号

令和七年二月二十日発行

編集責任者 鹿志村 則男

発行人 鹿志村 則男

発行所 一盤園法 茨城県教育会

水戸市見和一 三五六一二

電話 〇二九一三二一七四七

印刷所 有限会社山田軽印刷所